

製剤種差検討会

「製剤設計における種差の問題検討会」

第7回事例報告会

日時：2018年11月30日（金）10:00～17:35
会場：城西大学 紀尾井町キャンパス

2016年4月に発足した製剤種差検討会での事例報告は今回で7回目を迎えました。67名が参加し、5例の事例報告と総合討論がなされました。前回同様、今回も討論時間が足りなくなるぐらい白熱した議論が交わされ、盛況のうちに会を終えることができました。



▲代表世話人あいさつ
原島秀吉先生
(北海道大学大学院)



▲藤井まき子先生
(日本大学)



▲上林敦先生
(アステラス製薬)

事例報告① 藤井まき子先生

- 皮膚表面自由エネルギーの違い

事例報告② 上林敦先生

- 経口投与製剤のin vivo性能におけるヒトと実験動物の種差

事例報告③ 辻本拓哉先生

- イヌを用いた放出制御剤の評価法について

事例報告④ 狩野真由美先生/藤田優先生

- 腸管内環境の種差がメサラジン腸溶錠の吸収性に与える影響に関する検証

事例報告⑤ 石田竜弘先生

- 微粒子製剤に対する免疫反応:PEG修飾リポソームに対するABC減少とCARPA

事例報告ファシリテーター、 総合討論進行役の先生方



▲辻本拓哉先生
(興和)



▲狩野真由美先生
(日本バイオセンター)



▲藤田優先生
(沢井製薬)



▲石田竜弘先生
(徳島大学)



▲閉会のあいさつ
山下伸二先生 (摂南大学)



▲菊池寛先生
(LTTバイオファーマ)



多くの参加者から積極的な意見や質問が
寄せられ、活発な議論が交わされました。



報告会後に行われた情報交換会（参加者数
45名）では交流の輪が広がりました。

第8回事例報告会は6月あるいは7月に開催の予定です（開催地：京都）。

レイアウト：
村野 美佳(大日本住友製薬)
藤田 優(沢井製薬)